

＜金標準、利上げ観測後退と FRB の独立性のリスク・・・＞



(出所：オアシス)

雇用統計で非農業部門雇用者数が事前予想の 8.3 万人増を大幅に下回る 2.3 万人減と 5 ヶ月ぶりに減少を示している。また失業率は、事前予想の 4.2%を下回る 4.1%となり、2 ヶ月の就業者の伸びを合わせて 10.3 万人増となり、高インフレが続く中で、米国経済の基調的な強さにあらためて疑問符が点滅している。そのため 9 月開催の FOMC では、利上げ確率が 43.9%へ低下している。またトランプ大統領は、クック FRB 理事に対して「FRB に対する国民の信頼を損なう」との理由から解任を検討している事を通知し、8 月 26 日までに返答する様に求めている。最高裁は一度解任を阻止した理由が時間を与えていない事から、今回は 21 日間の対応を求めている。そのため雇用統計やクック FRB 理事の解任要因はドル売りに結び付く要因であり、昨年 8 月 20 日クック理事に解任を要求したケースでは、金標準先物は 15890 円から 17500 円へ向けた上昇のきっかけとなっており、今回も同様に FRB に対する独立性を問う問題となるだけに、金標準価格を押し上げる要因になると思える。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足の MACD では、MACD が上昇し、シグナルも切り上げている。RCI は短期が上昇し、長期も上昇している。特に指数平滑移動平均線のレンジを日足が上回るなど、ゴールデンクロスが発生しており、6 月の高値 23103 円へ向けた値動きに思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,175,000 円(2026 年 8 月 10 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 102,960 円(2026 年 8 月 10 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>